

件名	令和3年度第2回 おおた健康プラン推進会議		
日時	令和4年1月28日(金) 午前13時30分から15時00分まで	場所	リモート会議 (会長及び委員1名、健康政策部職員のみ201・202会議室)
出席者	委員16名(会場2名、リモート10名、 書面4名) 庁内23名(別紙区側出席者のとおり) 東邦大学 2名(リモート)	進行	佐々木健康医療政策課長
事務局	健康医療政策課		
議題	1 おおた健康プラン(第三次)に関する報告 2 「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」大田区と東邦大学との共同研究 3 その他		
発言者	内容		
開会 健康医療政策課長	<p>私、本日の司会進行を務めさせていただきます健康医療政策課長の佐々木と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>本日の会議の内容につきましては、ホームページで公開をするため、事務局で録音することになっております。ご了承ください。</p> <p>会議の傍聴につきましては、直近の感染症の状況を考慮し、中止とさせていただきます。</p> <p>また、前回7月の会議と同様、リモート会議の参加者の皆様にご案内申し上げます。会議中、画面左下にあるミュートのアイコンを赤のミュート解除の状態になるよう、画面操作をお願いいたします。これにより、皆様のマイクがオフの状態になります。発言時は、挙手ボタンを押すか、画面上で挙手をいただいた後、左下のアイコンを緑のミュートの状態になるよう、画面操作をお願いいたします。これにより、皆様のマイクがオンの状態になります。発言後は、再び、アイコンを赤のミュート解除の状態になるよう、操作をお願いいたします。また、ビデオは緑の表示の状態になるよう、操作をお願いいたします。健康政策部以外の庁内検討委員会の方は、ミュートのアイコンは赤のミュート解除にして、ビデオは赤の非表示の状態でお願ひいたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、大田区健康政策部長、木田よりご挨拶を申し上げます。</p>		
挨拶 健康政策部長	<p>健康政策部長の木田でございます。委員の皆様、本日はお忙しい中、ご参加をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>昨年末には、この会議、対面でもできるかなと思っておりましたが、年明け、1月3日までは大田区も一日の新規感染者数が1桁だったんですけれども、昨日は929人ということで、本当に一気に増えているという状況で、本日リモート会議となっております。聞き取りにくいことがあるかもしれませんが、その際にはご遠慮なく、お申しいただければと思います。</p> <p>この2年間、このような状況の中で、区民の健康に関する意識が高まっていると感じております。長期間、外に出られないような状況が続く中で、心身にどのような影響が出てくるのか、今後明らかになってくると思っております。それに伴いまして、現プランも修正が必要になってくるかもしれないと考えております。</p> <p>プランですが、今年度3年目でございます。今年度、実績報告の内容を見直しまして、会長であります西脇先生が在籍されておしま</p>		

	<p>す東邦大学のご助言もいただきながら、実績をなるべく数値化し、見える化を行っております。まだ工夫の余地はあるかと思っておりますので、皆様のご意見を今日お聞きしながら、また修正をしていきたいと考えております。</p> <p>プランの実績ですが、皆さん既にご存じのことと思っておりますけれども、やはり新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業が多々ございます。来年度はしっかりと事業が実施できることを期待し、それにつながるよう、本日、皆様からのご意見をしっかりと受け止め、検討していきたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いたします。</p>
<p>議事 健康医療政策課長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>推進会議委員及び健康政策部を除く庁内検討委員の皆様は、原則リモートでの参加となっております。ただし、西脇会長、そして中田委員におかれましては、議事運営やリモート会議への対応状況など諸事情を勘案して、事務局の判断で会場にお越しいただいておりますので、ご了承ください。</p> <p>また、瀬川委員、横田委員、指田委員、三木委員の4名の方は、書面での参加とご連絡をいただいております。さらに、前回7月の会議と同じく、今回も東邦大学から、朝倉准教授と今村助教にリモートでご参加いただいております。</p> <p>資料につきましては、各委員の皆様へ事前にお送りしております。資料は画面上で共有いたしますが、議事の進行上、一部の資料について表示を省略する場合がございますので、ご了承ください。</p> <p>それでは、西脇会長にご挨拶と議事の進行をお願いいたします。よろしくお願いたします。</p>
<p>西脇会長</p>	<p>東邦大学の西脇でございます。本日はどうぞよろしくお願いたします。</p> <p>なかなか、部長からお話ありましたように、コロナの対応がもう本当に大変な逼迫している状況の中で、このような会議ということですがけれども、短い時間ですけれども、ぐっと中身の濃い、いい会議にできればいいかなというふうに思っているところでございます。</p> <p>では、早速、次第に従いまして、議事のほうに進んでいきたいと思っております。</p> <p>まず、議事の(1)番、おおた健康プラン(第三次)に関する報告ということで、まず、事務局よりご報告をお願いいたします。</p>
<p>健康医療政策課長</p>	<p>それでは、おおた健康プラン(第三次)の実績報告についてご説明いたします。</p> <p>資料1をご覧ください。今回より、実績報告の内容を見直し、そのほとんどを数値で推移を示す方法に変更いたしました。理由でございますが、施策ごとの目標に対して複数の重点事業があり、それらの進捗をプラン全体で比較するには、事業の現状を数値で見える化し、把握することが有効と判断したためでございます。また、この方法を取ることで、職員の負担軽減が期待され、感染症対応を一例とした業務の逼迫時において、進捗管理が比較的容易になるというふうに考えております。</p> <p>令和2年度の実績に対して、AからDの4段階で評価しております。Aが順調に遂行できた、Bがおおむね順調に遂行できた、Cがあまり順調に遂行できなかった、Dが順調に遂行できなかったとなっております。評価がC、Dの場合は備考欄に令和3年度以降の対策等について記載がございます。なお、評価については、数値で</p>

	<p>は表せない対応や取組も含め、事業全体の評価としております。</p> <p>各事業ですが、ここでの詳細な説明は省略し、後ほど質問や意見交換の中で必要に応じ個別に対応させていただきたいと考えておりますので、ご了承ください。</p> <p>また、本件につきましては、塚越委員より別途ご質問いただきしており、本日、当日資料として共有をいたします。後ほど塚越委員よりご意見をいただければと考えております。</p> <p>続きまして、新型コロナウイルス感染症の状況について、担当よりご説明いたします。</p>
<p>感染症対策課長</p>	<p>感染症対策課長の高橋です。資料は2番をおつけをしてるんですけども、ちょっと時期が少し古くなっていますので、私のほうから、最近の情報を含めてご説明いたします。</p> <p>毎日の陽性患者数は、大田区のホームページでも報告させていただいております。1月の4日以降、1日100件、200件というふうが増えてきていて、現状は、昨日も900件を超えるというような状況になっています。やはり検査はかなりできるようになってきたということと、あとは、かなり感染力が強いということで、もちろん同居の家族で陽性になる例もありますが、それ以外でも感染はいろいろな場所で広がってきているという状況です。</p> <p>資料2の2ページ目に、年齢階級別ってということで、例えば10月とか11月の年齢層による、患者さんがどこの年齢が多いのかっていうのが載っていますが、ここ2週間ぐらい見ていると、やはり20代、30代、40代でほぼ6割、7割という感じで、あと、また10代未満というところでも多くなっています。60代以降の高齢者はまだ2割から3割弱程度なんですけれども、もともと持病があったりして、少し具合が悪くなって入院する方も増えているような状況で、オミクロンなど軽症で済むというようなお話もありますが、もともと持病があったりする方ですと状況が変わってきますので、必要に応じて入院等の対応はしているところです。</p> <p>それから、その次の次のページですね、今後の体制についてというところで、今まさに第六波になって、こちらを進めてはいるところですが、以前は発生届を受けて、疫学調査をして、調整をして、健康観察ということでやっていましたが、疫学調査もちょっと全件やることは難しいので、トリアージ基準といたしまして、年齢ですか持病があるかどうかとかを勘案して、保健所からの調査範囲を少し限定させていただいております。なので、周りに陽性の方がいらっしゃって、保健所から連絡が来ないっておっしゃる方もいるかもしれませんが、今、保健所のほうで、発生届とって医療機関から届けられた内容に応じて、必要な方にご連絡しているような状況です。基本的には、ご本人に日々の体温等、症状があるかないかっていうものを厚労省のシステムに入力していただくようなメールをお送りしていますので、そちらをぜひご覧いただければと思います。</p> <p>またあわせて、医療機関で、大田区内の医療機関の話にはなってしまっていますが、陽性の方に療養期間はいつまでになるとか、心配なときの電話番号、窓口とかもチラシとしてお渡しをお願いしておりますので、そういったものをご確認いただければと思います。</p> <p>それで、健康観察で、一番右側のところが、もし入院ができなくて自宅療養者が増えてきた場合は、従前は保健所だけで行っていたんですけども、その下の点線の四角にあるとおり、現状では関係機関で強化していくということで、医師会の開業医さんのほうで、電話診療や必要に応じて往診、また、①の訪問看護ステーション</p>

	<p>で、訪問看護師さんがお家のほうに行っていただくことですか、②の妊婦さんに関して、基本的には入院をお勧めしては、助産師さんの訪問や電話の対応、また、③で、東京都のフォローアップセンターという看護師が健康観察等を行うセンターがございしますが、こちらのほうも人数を増やして対応はしているところですが、なかなか対応が至らない点もあるかと思いますが、まずはうつらないというために、外出する際はきちんとマスクしていただいたり、消毒していただいたりというところと、もし陽性となっても、保健所からのメールは届くと思いますので、そちらをご覧くださいながら、必要な方はかかりつけ医の先生等ともご相談して、入院等の対応をしているところになります。</p> <p>あと、ちょっと後ろのほうの資料で、資料6-1は今のようなお話になるんですが、資料6-2のほうで、23区の状況等も書いておりますので、この数、12月31日現在ですので、この1か月でかなり数は変わってきますが、大田区は人口が多い区としてはそれほど、全体の数が多いことは多いんですけども、23区内で比べてみますと、少し数としては平均ぐらいかなというところになっています。</p> <p>簡単ですが、私のほうの説明は以上になります。</p>
健康医療政策課長	<p>続きまして、新型コロナワクチンの対応状況について、担当からご説明いたします。</p>
保健予防調整担当課長	<p>保健予防調整担当課長の土屋と申します。私からは、新型コロナワクチンの対応状況についての報告をさせていただきます。</p> <p>初回接種、5月から接種を開始させていただきまして、医師会の皆様方、それから医療関係者の皆様方のご理解を賜りまして、接種を進めてまいることができました。また、追加接種についても、現在進めているところでございます。</p> <p>資料の方は、状況が刻々と変わってくるものですので、大分たくさん資料ご提供させていただいたのですが、少しかいつまんで説明をさせていただきます。</p> <p>資料の7-1を表示ください。まず、初回接種の状況についてでございます。初回接種は、1のほうでございますが、12歳以上、対象者は全員で、2回目まで接種された方が57万7,447人、接種率は86.7%でございます。当初、接種の見込みとしての想定が65%ですので、それを大幅に上回る接種が進んだところでございます。</p> <p>また、高齢者につきましては、15万5,435人ということで、90%を超える接種率となっております。</p> <p>また、年代別のところが大田区の特徴が出ておりまして、10代、20代ですけども、20代が76.4%、20代で80.4%で、こちらも高い接種率となっております。各年代がほぼ満遍なく接種が進んでいるという状況が見てとれます。こういったところも、区からももちろん啓発・広報もさせていただいてるところなんですけれども、区民の皆様方のお互いのお声かけですとか、そういった中で、希望される方の接種が進んだのではないかと考えているところでございます。心より御礼を申し上げます。</p> <p>続きまして、追加接種の状況につきましては、本日配信させていただきました新型コロナワクチンの接種事業について（追加接種実施計画2.4版概要）のほうで説明をさせていただきます。表示のほうお願いいたします。</p> <p>こちらの資料になります。追加接種につきましては、2回目の接</p>

種が完了した方、約 57 万人の方が対象者でございます。このうち、現在は 18 歳以上の方が対象となっておりますが、国から、12 歳以上ということで準備することが示されておりますので、その全年代の分が 57 万人ということでございます。

それから接種間隔につきましては、当初、8 か月間隔での接種を国から方針が示されておりました。ところが、新型のオミクロン株の蔓延がございまして、12 月の初旬から、前倒しで対応が必要ということで、順次、前倒しの対応をさせていただいたところでございます。

これが 2 番のところになります。医療従事者が一番早かったところで、12 月から 6 か月間隔で対応させていただいております。それから、高齢者施設等入所者、従事者につきましては、こちらも 6 か月ということで、1 月の 11 日から、施設での接種、巡回でも専門の医療スタッフによる接種がスタートしてございます。

従事者につきましては、現場でも接種させていただいているのですが、現場で全員接種してしまうと、翌日以降、副反応で介護がままなくなる可能性もありますので、集団接種会場で専門の枠を用意させていただいているところでございます。

続きまして、上記以外の高齢者の方ということで、施設入所者以外の高齢者の方につきましては、当初、7 か月で前倒しの想定をしていたのですが、6 か月ということで、1 月の 21 日から前倒しを対応させていただいてるところでございます。現在、予約のほうも本格化してまいりまして、皆様が、6 か月間隔の接種予約で進んでいる状況でございます。

また、その他一般の方、64 歳以下の方につきましては、政府の方針では、3 月以降に 7 か月で前倒しをしてくださいということでございましたので、これを踏まえまして、また、高齢者の接種見込みがある程度ついてからということもございましたので、このような形を取らせていただいております。今後、さらなる前倒しが必要だということもございまして、なるべく早く、この部分について接種間隔を短くすることと、それから、その対応についても、3 月を待たずにできるようにということで、今、鋭意準備を進めているところでございます。もう間もなく何らかのお知らせができるのではないかと考えてるところでございます。

続きまして、接種券の発送です。こちらも、当初は 8 か月で皆様が接種されるということを前提にスケジュールを組んでいたのですが、なるべく 6 か月の間隔で接種が可能になるよう、事前に届くようにということで、スケジュールのほうを組ませていただいております。1 月 21 日には、主に高齢者の方を中心に、13 万 2,000 通を発送させていただきまして、郵便局のほうは大量な発送でしたので、発送を 28 日までの配達完了ということで、おおむね、昨日には配達が終わっていると聞いております。また、一昨日、26 日の配送分も同様に、昨日には配送を完了していると聞いております。

今後については、2 月 1 日に 8 万 9,000 通の発送、2 月 10 日、2 月 21 日と、それぞれ 7 月の後半、それから 8 月、9 月の方が、2 回目接種をされた方が対象に発送のほうをさせていただきます。区の会場はもちろんなんですけど、自衛隊会場などで 6 か月で接種可能になってくる会場もございまして、接種券は、こちらの会場もご活用いただきまして、なるべく早い接種ができるように、区のほうも啓発を進めてまいります。

続きまして、ワクチンの供給状況でございます。ファイザー社製ワクチンにつきましては、第 3 クール、3 月分までということで、

	<p>14万6,000回分の供給を受けることで、政府から示されているところです。また、武田／モデルナ社ワクチンにつきましては、4月の接種相当分に加えて12万8,000回分のほうが供給を受けているところでございます。</p> <p>ファイザーのワクチンにつきましては、主に個別の医療機関様に供給の7割余お渡ししております。それから巡回接種では、高齢者の施設の接種でもともとファイザーワクチンを使っていたものですので、こちらはファイザーワクチンをなるべく使わせていただいて、集団では、主にモデルナワクチンを活用しながら、高齢者については、地域の嶺町集会所ですとか六郷地域力センターですとか、そういった身近なところについては、一部ファイザーのほうを使っている状況でございます。</p> <p>集団接種会場でございます。接種会場自体は、個別接種が、医療機関様のご協力の下、約300の医療機関で接種をお願いしているほか、集団接種会場で接種を実施させていただいているところでございます。</p> <p>また、前倒しに関しましては、この11か所の接種会場のほかにも、また増設を検討、準備を進めているところでございます。こちらも、近々お知らせできるのではないかと考えております。</p> <p>目下、3番にありました片柳アリーナ、2月の11日、12日ですが、それぞれ4,000人の接種が可能な会場がございますので、そういったところも活用いただきながら、接種の予約が埋まるように、また接種いただけるような形でご案内を今進めているところでございます。</p> <p>簡単ですが、私からの説明は以上になります。</p>
健康医療政策課長	議事の1についての説明は以上でございます。
西協会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>健康プランの実績報告と、それからコロナの感染状況と、それからワクチン接種の状況について、今、区からご説明いただきましたけれども、ただいまの3つ、ご報告ございましたけども、委員の方々から、ご質問あるいはコメントをいただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>画面上、手を挙げていただくか、何か合図を送っていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p> <p>そうしましたら、塚越委員から、主に実績報告に関しまして、事前にご質問いただいているようですので、少し併せてコメントもいただければと思いますが、塚越委員、よろしいでしょうか。</p>
塚越委員	<p>コメントありがとうございます。</p> <p>私の健康プランの実績報告をいただいたエクセルのほうの個別のコメント評価についてですね、ちょっと疑問に思ったところをコメントさせていただいたということです。これについては、本当にお時間のあるときで構いませんので、今ちょっとコロナ禍の対応のほうに優先だと思えますから、そちらをしながら、お時間のあるときで結構なんですけども、それぞれ回答をいただくと助かります。</p> <p>一つ一つはここで説明するつもり全くなくて、後ほど、もし委員の方々にもシェアいただけるのであれば、それでいいかなと思っております。</p> <p>一つだけ、ここで強調をしておきたいのは、今回、私、これ見る前に、恐らくコロナ禍だったので、CやDがついてくるんだろうなって想定して見に行ったんですね。そしたら、比較的Aがついてた</p>

	<p>んですね。Aのつけ方も、思ったより予定どおりできたっていう意味のAもありましたが、特に私がコメントしたのは、やり方を変えた、つまり、もともと想定していた施策はできなかったんだけど、コロナで。ただ、別のやり方やったらできたので、別のやり方でAをつけましたっていうのが幾つか散見されました。</p> <p>そこで、2つ、視点としてお伝えしたいのは、まず、1つ目は、本当に代替的なやり方で効果が出たんですかねっていう、ちょっとネガティブな意味の、評価違いますかっていう意味のまずコメント。もう1個は、本当にAなのであれば、もうやり方を、もともと想定してた予定ではなくて、今回の代替的な要因でもできるんだっていうんなら、そっちでいいんじゃないですかっていう、この2つです。特に私、後半のほうですね、今まで、コロナとかがなければ、予定どおりやらなきゃいけないって、決まったことはやらなきゃっていうのは、多分大田区の職員の皆さんの中でもあったかと思いますが、このコロナ禍で、代替的な、もっと簡易的なやり方やっても同じ効果が出るじゃんっていうことが、もし本当に示されたのであれば、もう簡易的なやり方でいいんじゃないかっていうふうに私は思っています。なので、こういう事業の見直しっていうところが、コロナのいい機会でもあるので、本当に代替的なやり方で効果が出たというふうにAをつけてるのであれば、そのやり方、今後は計画のほうを見直していくということもあっていいんじゃないかっていうこと、ここだけはちょっと強調しておきたいかなというふうに思います。</p> <p>私から以上です。</p>
西協会長	<p>塚越委員、貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>どうでしょうか、区のほうの答えとしては、今のご示唆に関しまして。</p> <p>佐々木課長かな。</p>
健康医療政策課長	<p>塚越委員、貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>今回、庁内の関係部局で評価を、それぞれAからDでしていただいたわけなんですけど、その評価の基準、物差しが必ずしも部局によって共通認識がなかったといったことが、こういったばらつきのあるものになったのかなと。ご意見を、今後の事業の見直しのサンプルにさせていただくとともに、次の健康プランの改定のときに、今委員からのご意見も参考にさせていただきながら、物差しづくりにつなげてまいりたいというふうに思っております。どうもありがとうございます。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、委員の皆様のお手元にエクセルの資料もあるんじゃないかと思うんですけども、数字で表せるものに関しては、グラフを追加したりして推移が分かりやすくなったっていうようなことは評価できるかなと思います。一方で、このA、B、C、Dの評価は、令和2年度の実績に関しての評価ですよ。</p>
健康医療政策課長	はい。
西協会長	<p>その辺が、推移を含めての評価なのか、単年度だけを見て評価してるのかって、ちょっとやや分かりづらくなっていうような印象を私も持ちました。</p> <p>塚越委員のおっしゃったのも非常にもっともで、代替指標でオー</p>

	<p>ケーなんだったら、最初に上げてた評価指標って何だったんだろうってような疑問、正直持ったのも事実です。ただ、もちろんコロナの中で思いどおりにいけないなんていうのは十分想像できることなので、できなかつたらできなかつたでいいと思うんですけど、その辺は少し記載を書くとか、A、B、Cとは別に、そういう評価を設ける、思ったとおりにできなく、代替の行為をした、A、B、C、D以外の何か記号をつけるとか、何かそういう工夫もちょっとあっていいのかなと思いました。</p> <p>改善もあったと思いますので、塚越委員のご意見も含めながら、さらにこれをブラッシュアップして、いい方向に持っていければいいのかなっていうのが、私の思った感想であります。</p>
健康医療政策課長	ありがとうございます。
西協会長	<p>ほかの委員の方は、どうでしょうか。これいいとか、これ駄目とか、何か。個別の1個1個はちょっと今日は難しいかなと思うんですけども、全体的な評価の仕方、あるいは特にこれだけは言っておきたいというのがあれば、個別のことでも構わないと思うんですけども、いかがでしょうか、委員の方々。特に大丈夫ですか。</p> <p>個別の対応に関しては、あれですかね、ここに記載されているのを共有するっていう形になりましようか。塚越委員からいろいろ意見あったと思いますけど。</p>
健康医療政策課長	塚越委員からのご質問内容については、今、関係部局で回答を準備しております。その内容については、先ほど共有を一部させていただいたところもあるんですが、委員の皆様には、お手元にお届けしたいと思っておりますので、ご確認をいただければと存じます。よろしく願いいたします。
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>特にこの実績報告に関しては、これぐらいでしょうか。また後で、ご意見ございましたら戻っても構わないと思いますけれども。</p> <p>そうしましたら、あと、コロナ、あるいはワクチンも含めてかと思えますけれども、ここに関しても、先ほど区のほうからご報告ございましたけど、これに関してはどうでしょうか、ご意見、コメント。</p> <p>はい、どうぞ。ミュート解除してお願いいたします。田中委員。</p>
田中委員	大田区薬剤師会の田中です。オミクロンがこれだけはやってきてるんですが、この間のときは割と早い、これぐらいの人数の前から夜間とかの対応をすることで、薬剤師会のほうでも結構やってたんですけども、今回特に今のところ夜間の対応っていうのを、あまりお薬を持ってきてくださいとかっていうのはないんですけど、この辺の連携をしっかりと取っていただいて、病床が結構逼迫してるので、夜間の対応が必要になってきそうですよっていうことがあれば、早めに薬剤師会のほうにもご連絡いただければと1個お願いしたい。
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>これはどなたが。</p> <p>高橋課長。</p>
感染症対策課長	今現状、お若い、20代から50代ぐらいの方で、すぐ往診が必

	<p>要な方っていうのはそれほど多くない状況で、むしろ60代以上で、もう本当に酸素濃度下がっていて、それ以外の全身状態も悪くて入院が必要というような事例が多いので、ただ、ちょっと今週、おとといぐらいから入院もすぐできないようになってきてるんですけど、おっしゃるとおり、今後、多分そういった方で、ご高齢だけでも、お家で見なければいけない方も出てくる可能性があるもので、夜間や土日の対応も、また前回と同じように、できる範囲でぜひお願いしたいと思いますので、また医師会も通じて、薬剤師会さんも通じて、情報提供はさせていただきたいと思っています。</p>
田中委員	はい。
感染症対策課長	<p>あと、すみません、一つ追加なんですけれども、今、国のほうでも、同居家族に陽性があれば、その後、別の同居家族が熱が出た場合、検査なしで陽性とみなして判断していいということが出てきてまして、その取扱いについても、ちょっと東京都のほうで今調整中で、今日の夜、またその会議もあるようなので、多分、また東京都からも薬剤師会さんのほうにも情報提供入るかとは思いますが、そういった流れで、検査は経ないで陽性と診断される事例が爆発的に増える可能性があります。対症療法のお薬ですとか、そういったものをまたお願いすることが出てくるかと思っておりますので、引き続きどうぞよろしく申し上げます。</p>
田中委員	はい、よろしく申し上げます。
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ほかの委員はいかがでしょう。ワクチンも含めていいと思いますけど。特に大丈夫でしょうか。はい、大丈夫なようでございます。</p> <p>そうしましたら、また、追加のご質問があれば、後で戻ってもいいかなと思いますが、議事1番はここで終わりとさせていただきます。議事の(2)番、「人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト」大田区と東邦大学の共同研究ということで、こちらに移りたいと思います。</p> <p>これもまず、区のほうから申し上げます。</p>
健康医療政策課長	<p>それでは、説明いたします。画面共有でお願いいたします。</p> <p>画面で表示しております令和3年度人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクト実施概要に沿ってご説明をいたします。</p> <p>まず、行政情報の分析でございますが、昨年委員の皆様にも冊子をお配りしてございます令和2年度報告書と同じ情報につきまして、直近の令和2年度のデータを大学へ提供してございます。現在、大学において集計及び分析の作業を進めている段階です。</p> <p>次に、質問票調査についてご報告いたします。昨年9月10日に、大田区キラリ☆健康調査と題しまして、計3万6,000人の区民の方を対象にアンケートを実施いたしました。内訳としましては、18特別出張所地区別の20歳から89歳の2,000人にお送りしたところでございます。10月1日の回答期限の後、督促兼お礼状をお送りし、最終的な期限を10月29日といたしました。</p> <p>令和4年1月現在の公表前の速報値といたしましては、回答者数は1万2,345人で、回答率は34.3%となっております。詳細については、概要報告書として取りまとめた後、委員の皆様には4月以降にお送りする予定でございます。</p>

	<p>次に、実装戦略に向けた活動についてご説明いたします。本事業は、東邦大学の先生方と密に連携し、共同で研究することで、アカデミアの知見を新たな施策の構築や事業の見直しにつなげる大変貴重な機会と位置づけてございます。研究だけにとどまらず、いかに実装につなげるかが重要であり、この点については、前回の推進会議でも今村先生をはじめ、大学側からもご説明をいただいたところでございます。</p> <p>そこで、令和3年度から健康政策部内で、保健師、歯科衛生士、栄養士、事務などの多職種によるプロジェクトチームを設置し、5月からこれまで10回を開催し、年度末までにはあと2回、計12回のディスカッションを開催する予定となっております。大学の先生方にも毎回ご参加いただき、職員の人材育成にもつながるものというふうに考えてございます。具体的な取組内容につきましては、各地区の強みを生かし、課題を改善するような方向で検討を進めております。決まりましたら情報提供をさせていただきたいと思っております。</p> <p>最後に、実装戦略への課題でございますが、この点はぜひ各委員の皆様から多くのご意見を頂戴したいというふうに考えてございます。本事業のタイトルにもなっております健康寿命の延伸には、若い世代から生活習慣を改善することが重要と考えております。ただ、現状では、健康無関心層や忙しい働き盛り世代でいかに効果的にアプローチできるかが大きな課題であると認識しているところでございます。ぜひ各委員それぞれのお立場でご助言をいただき、今後の参考とさせていただければと存じます。</p> <p>事務局からの説明は以上でございます。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>当日資料に基づいて今ご報告いただきましたけれども、最後のところ、今日、ご同席の各委員の方々から、ぜひ何かよい知恵がないだろうか、特に働き盛り世代だとか、よりもっと若い世代だとか、そういうところにアプローチするのに、こういうアイデアはいいんじゃないかっていうようなお知恵を頂戴できればということでしたけれども、いかがでしょうか。委員、どなたでも構いませんけれども、あるいはどういう視点からでも構わないと思いますが、どうですか。</p> <p>私から指名するのもなんなんですが、指名しちゃってもいいでしょうか。</p> <p>はい、どうぞ。</p>
馬場委員	東京商工会議所の馬場と申します。よろしいでしょうか。
西協会長	馬場委員、お願いします。
馬場委員	<p>今回の人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクトというところで、企業、東京商工会議所の代表として出させていただいてるんですけども、働ける環境というのがしっかりと安定しないことには、これ、100年っていうのは、ちょっと私世代からすると長いなというふうに感じております。そのためには、働ける環境、また、産業だとか、そういったことを安定させないと、不安が大きくなるのかなと、それか心の中での健康が悪くなるのかなというふうにちょっと感じてるので、何とかこの産業のほうから、安定して働ける、そして年を取っても働けるものっていうのを考えていかなければいけないのかなんていうふうに感じています。すみませ</p>

	ん、意見です、取り留めないですけど。
西協会長	ありがとうございます。 区のほう、いかがですか、今の。
健康医療政策課長	<p>安心して働ける環境づくり、確かに大事なことでございます。</p> <p>健康政策部としてできることとしましては、健康経営事業所の認定事業というものがございます。令和元年度にスタートいたしまして、20の事業所からご応募をいただき、19の事業所をゴールド、シルバー、ブロンズと3ランクに認定をしたところでございます。</p> <p>令和2年度については、コロナの関係で、事業所の皆様が厳しい環境に置かれてるということも考慮いたしまして、中止をいたしました。ただ一方で、コロナ対策にきちんと向き合ってる事業所を評価すべきではないかというご意見も頂戴をいたしまして、令和3年度、今年度募集を再開をいたしました。なかなか周知が難しかったところもあるんですが、23の事業所に応募いただきまして、全てに対して認定をするという結果となっております。詳しい結果についてはまたご報告をさしあげたいと思っております。</p> <p>こうした区としてできることをやりながら、少しでも事業所の皆様、従業員の皆様が安心して働けるような環境づくりに貢献できればなと思っております。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。健康の前に、まず、しっかり働いて、食っていけるだけの環境を整えよというようなご指摘だったのかなというふうに思いました。ありがとうございます。</p> <p>ほかの視点ではいかがでしょうか。職域の話がちょっと出たんですけども、産業保健を絡めることも大事かなと思ってるんですが、五十嵐先生、その辺、ご意見いかがでしょうか。すみません、いつも振っちゃって、申し訳ないです。</p>
五十嵐委員	<p>いつもお世話になっております。東京工科大学の五十嵐でございます。</p> <p>大田区の皆様、今、本当にコロナ禍で大変で、その中でこの健康経営の事業所認定も、先日、私も参加させていただいておりますけれども。やはり大田区が町工場や中小企業がたくさんあって、経済を支えている地域でございますので、今、これから定年延長も国は推奨していくと思っておりますけれども、やはり大田区で働くということが非常にこう、健康といいますか、健全に安全に働ける区であるというふうな、そういう区にしていくことが重要だというふうに思っておりますので、このおおた健康プランの中でも、やはり働く人たちの健康っていうのは、非常に区としても財政面でも下支えになる重要な集団だというふうに思っております。ですので、働く人たちに働きかけるっていうのも一つなんですけれども、事業者のほうに働く人たちの健康っていうのをきちっと捉えていただき、そして、今ご提案のあったように、人生100年時代の中で、少しでも長く雇用を生み出していく区にしていく必要があるかなというふうに思っております。</p> <p>この健康経営の事業所認定というのは一つの取っかかりではあるんですけれども、ぜひ、またその辺りはいろんなアイデアを生み出しながら、健康づくりに反映していけたらいいのではないかなというふうに思っております。以上です。</p>

西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ぜひほかの委員からも、いろんな視点でお話伺えればと思うんですけれども。健康づくりで真っ先に浮かぶのは、やっぱり栄養とか運動とかってということが思い浮かぶんですけども、運動っていう観点から、桑田委員、いかがでしょうか。何かご意見ございませんでしょうか。</p>
桑田委員	<p>ありがとうございます。まず、今回コロナの件では大変な中での日常業務、関係者や保健所の皆様のご苦勞については改めて敬意を表したいと思います。ぜひご健康に気をつけてこれを進めていただければうれしく思います。</p> <p>健康経営の視点ですが、やはり健康寿命の延伸ですね、現役時代からこれをどう延ばしていくかの意識付けについて、これは大きなテーマだと認識しております。私はスポーツとか運動をやる環境づくりやその場を提供していく点で日々活動し、区の状況も見させていただいております。がやはり、現状様々な方へのアプローチは本当に難しいなと実感しております。それは、健康経営というプロジェクト、大田区が掲げておられるその中身についての周知徹底と実践が必要だと思います。まず、企業サイドの経営者の理解と同時に、具体的に現場で働いておられる従業員の方々の意識啓蒙がものすごく大事だと思います。合わせて、意識啓蒙されても、じゃあ、たとえば食事はどうしたらいいのといったときの情報、あるいは運動をやりたいんだけど、運動はどこでやってるのという情報、これらをリンクしていかないとそういう環境を提供する事には結びつかないのではないかと思います。関連性での継続性と習慣化です。運動だけやればいいという問題でもありませんし、食事だけ気をつけたいという問題ではないような気がします。</p> <p>それと同時に、コロナで非常に分かりましたのが、メンタルヘルスということです。心身共の健康管理、これは言うことは簡単ですが、実践する際には難しいとは思いますが必要なことです。じゃあ、どういうタスクフォースじゃありませんが、識者、あるいは専門家が集まって、方針を出し、かつ、具体的に誰がどこでどのように、個人一人一人にアプローチをしていくかということが、行政政策の非常に大事で重要なことだと思います。本当に今回、コロナ禍によって、身にしみて感じております。</p> <p>そういう視点を含めまして、企業のみならず、商店街や工業会のメンバーですかと、大田区内、相当の事業所数と従業員の方々がいらっしゃいます。そういうところと、専門家としての我々民間もお手伝いしながら、行政方針を徹底し安全で継続的に安定してスポーツや運動をやる場をどう担保していくかということは非常に大事ではないかということを感じさせていただいております。以上、意見でございます。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>中田委員、いかがですか。</p>
中田委員	<p>蒲田健康ウォーキングクラブの中田と申します。</p> <p>私は、ウォーキングクラブのちょっと参加してる仲間のことについて、若干言ってみようかなと思うんですけども。まずコロナっていう話が2年ぐらい前ですか、のときからあって、病院に勤務された方ね、ぱたっと出てこなくなったのね。これは同じ兄弟でも、姉さんのほうは平気で出てきて、電車の中でマスク外してべらべらしゃべって、注意したりする、いろいろ人それぞれだっと思って思</p>

	<p>うのはあるんですけども。その間に、ウォーキングクラブ、一緒に歩きながら、同時にフォークダンスとか、あるいは体操、そういうところへ参加してる方も結構いるわけで。ところが、体操をしたくても人数制限があって、これじゃあできないということでもって嘆いてる人も非常に多いわけなんですね。そんなことでもって、先ほどもありましたけども、運動できるところっていうか、そういうチャンスをできるだけ広くあってくれたらいいなという感じがします。</p> <p>個人的なことになりますと、私はコレステロールがちょっと高かったっていう数値があったもんですからね、近くのプールに行き出したんですね。前は区営プールに行ってたんですけど、やっぱりコロナの関係で中止になったり、毎日毎日予約を取らなきゃなくなったりするもんですから、近くに民間であったもんですから、そこに行ったら、結構大勢のご年配の方がいろいろおられるんでね、90歳を超えてる方かなと思われる方もプールの中で歩いたりしてる、そういう方います。だから、私は水泳好きなもんで見てるんですけど、大田区はちょっとプールが少ないなって、そんな気持ちも考えてるんだけど、何かそういう動ける場所、運動できる場所っていうのがもうちょっと欲しいなっていう、そういう感じはいたしています。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。 山崎委員はいかがでしょう。</p>
山崎委員	<p>佐伯栄養専門学校の山崎でございます。大田区の方々にはコロナのことで日々大変だろうと思います。ありがとうございます。</p> <p>やはり健康について、今、「キラリ☆健康おおた」という冊子等も配布されているんですが、もう少しいろんなところでこれが目につくようなどに置いていただくのもいいかなって思っています。ここには運動、栄養、休養、たばこ、お酒の生活習慣について、1冊の冊子でまとめられていると思います。ですので、もう少し見るところに配布できるようなどに置いていただけるといいかなというふうにも思っています。</p> <p>また、健康づくり課の方々には、健康メニュー協力店等のことで、お食事についていろいろ頑張っていたいてるみたいですし、やはり栄養っていうところから考えると、食事というのはなかなか長い年月のために変えられないっていう人が多いわけですけど、少しずつでも健康のための食事、運動、休養等が区民に広がっていけばいいかなというふうにも思っています。</p> <p>そういう意味では、いろんなところで食育、あるいは区民への栄養についての、食事についての啓蒙等には協力していきたいというふうに思っております。以上でございます。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。 何かここまで来ると、全員のご意見、ちょっと短くてもお聞きできればと思うんですけど。 佐藤委員はご出席でしょうか。ちょっと今、私、こちらから名前が読めないもんで。</p>
佐藤委員	<p>蒲田歯科医師会の佐藤と申します。いつもお世話になっております。</p> <p>実装戦略っていう部分でしょうかね、若年層に少しスポット当たってきてるということで、歯科の成人歯科健診というのは、以前は</p>

	<p>ある程度高齢者中心だったので、数年前より、二十歳以上という形になって、大分受診者が増えてきて、それと同時に、健康プランの私どもの中では、ケアと歯周病との関係というものも、大分事業としては少しずつ充実してきてるんで、そういう意味では。</p> <p>ただ、毎度申し訳ないんですけど、これ、私どもの事業が半年なんです、7月から1月までという事業になっておりまして、ぜひこれを健康プランという観点からも、通年で行えるようにできるっていうのもご検討いただきたいと思います。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>村委員はご出席でしょうか。いらっしゃいますか。聞こえますか、村委員はいかがですか。</p>
村委員	<p>自殺防止センターの村と申します。昨年来より、相談の中で、孤立の問題がとて多くなっているというふうに思っております。特に、うつ病になられた方の話をちょっとしたいと思うんですけど、うつ病になられて休職中の方などが完全に孤立してしまって、どこも接点がなくなってしまうということで、自殺を考える方がとても多いのではないかなと思うんです。</p> <p>うつ病って誰でもなる可能性があって、これからのことを考えますと、本当に孤立したときとか、自分がメンタルがものすごく落ちていたときに、誰かとつながるようなシステムっていうのがあるといっているように思っています。それは、今でしたら、直接会うことができなくても、例えばSNSであったりとか、このようなオンラインで会うようなことを、安全な形でつながるようなことができればいいなというふうに思っております。</p> <p>以上、意見でした。すみません。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>菅委員委員はお入りでしょうか。</p>
菅委員	私ですか。
西脇会長	はい、何か一言ご意見いただければと思います。
菅委員	<p>この前、質問でもちょっと書いたんですが、やっぱり運動するのに、何だろうな、私も外に出るの、ちょっと今怖いので、あと、人と接触するの嫌なので、一人でも家でも動けるようなコンテンツがあればなって質問したら、それはありますっていうふうに回答されたんですけども。例えばスマホでもいろいろ動画見られるわけなんで、区報にQRコードとかを印刷して、それをかざせば、すぐに動画が見られて、部屋で体操できたり、ダンスできたりっていうふうな、そういうふうな発信の仕方とかもしたらどうなのかって、やってるかもしれないんですけど、一応ちょっと思いました。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>牧野委員はいかがでしょうか。</p>
牧野委員	<p>本日はお世話になります。私は、ふだん園芸関係のNPOに関わっているんですけども、本当にうちの会員さんは、外の活動なので、意外にコロナになっても、活動を止める必要があまりなかったので、結構駅前の花壇ですとか、そういったところのお手入れの活動をずっと続けているんですけども。何ていうんでしょうね、本当にもう立ち上げて20年たつ活動なので、かなりみんな高齢なんですけれども、私なんかよりも、ずっと皆さん元気で、すごく、それで、私も今回、ここの公募委員の手を挙げたので、そういう元気な高齢者がまちの緑をきれいにすると、そうすると自分たちが健康</p>

	<p>になるのがうまくかみ合わさると、まちがすてきになって、みんなが健康になっていいなみたいなど、そういうふうなのどかな発想から始まって、委員にならせていただいているんですけども。</p> <p>私が今関わっているのは緑の課題なんですけれども、そうじゃない、ほかのいろんな課題と健康っていうのを結びつけて、例えば子育て支援にっていうようなことで、お年寄りの方が活躍する場がいっぱいあって、みんなが健康になったり、求められる場があっっていうふうな、そういったところといろんなことが一緒にできるというのかなんていう、のどかなことを考えたりしています。</p> <p>あと、運動については、私もこんなコロナになってから、スポーツジムのカーブスって女性向きの、ご存じですかね、皆さん、そういったところに実は最近入りまして、それで、結構カーブスのマジックにはまっちゃってるんですけども、何ていうか、運動ができるだけではなくて、そこに行くと、行った方がこの中にいらっしゃるかどうか分かんないんですけども、まず、入店すると、あ、二三代さん、いらっしゃるっていうふうにして、女性が下の名前で呼んでもらえる機会ってなかなかないんですけどね、そういったところでもすごく元気になれるっていう、メンタル的な元気になれるみたいな、そういう環境も面白くて、運動しに行きながら、同じように健康のほうに気を遣って頑張ってる女性たちと交わりながら、それでいて、そういうふうにして扱ってもらえることで元気になれるみたいな体験をしていて、入ったばかりでまだまだあれなんですけど、面白いなと思ったので、そういったところと何か区が一緒にできても面白いのかなんてちょっと思ったりしたのでご紹介してみました。以上です。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。 塚越委員、いかがでしょうか。</p>
塚越委員	<p>ありがとうございます。皆さんの意見を聞きながら、自分なりにいろいろ考えてみたんですけど、恐らくこういう活動って、効果が見えるっていう効果の見える化と、あと、仲間がいるかっていうのは、すごい継続するには大事なんだろうなっていうふうに思います。</p> <p>その中で、特に働き盛りの人たちでアンケートを、たしか健康プランにもあったと思いますけど、時間がないっていうのがアンケートでかなり上のほうだったと思うんですね。運動をしに行く、例えばジムにしに行く、ウォーキングをしに行くっていう、何か運動をするために時間を使うって考えると、そういう時間はないって考えやすいと思うんですけど、ただ、日常働いている、日常生活の中で家事や育児をやってる、これも多分カロリー計算できるはずですよ。なので、何か日常生活でこういうことをやると、もうそれだけで、これ見える化のほうですけど、この活動をやると、このカロリーが消費をされますとかっていうことが、何か今、せっかくアプリもやってますんで、このアプリと連携をうまく取りながら、自分の今日やった活動、こうチェックしていくと、このぐらいのカロリーが消費されたとかってなってくると、見える化にもなるし、アプリだと仲間がいるっていうことももしかしたらあるかもしれないので、この見える化と効果っていうところ、日常生活と、あと、先ほど経営者の巻き込みっていうのもありましたけど、仕事のこういう活動をするとうような運動になってるんですけどっていう、わざわざ運動しなくても、日常の中でやっているっていうものをもっともっと見える化していくと、続けられるっていうことが増えてくるんじ</p>

	<p>やないかななんていうふうに思いました。</p> <p>あと、またそれと同時に、まちのデザイン化ですかね、私の家の近くには平和の森公園があるんですけども、そこでも走る場所とかもいろいろ書いてありますが、そこにも、このロードを使って、このぐらいやったらこのぐらいのカロリーとかですね、または、どっかの、たしか瀬戸内だったと思いますけど、ブルーラインっていう、自転車が走れるのを、ただ色をつけただけで、物すごい人たちがサイクリングするようになったとかっていうのもあるので、まちのデザインを少し変えるだけで、運動を活性化させるっていうのもあると思うんですね。なので、大田区で管理しているような公園とかで、鉄棒にぶら下がって、このくらいだとかですとか、それじゃあ、アプリにまた登録しましょうとか、何かちょっと今あるものを全部くっつけて、あと、見える化していくと、何かもっともっと親子共々、それを見ながら、公園で遊びに來ただけなんだけど、何かこんな運動、今日したねっていうのを親子で話せたりとか、ウォーキングしに來た例えばシニアの方が、ああ、こんなこともあるんだねって、ちょっとアプリ使ってみようかなと、何かこの辺りで、もっと今あるものを生かせないかなっていうのはちょっと思いました。私からは以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>田中委員、いかがでしょうか。</p>
田中委員	<p>田中です。見える化って、私のはねびよんのウォーキングのやつ出てまして、足りないなと思うと少し歩いたりとか、朝早めに行って歩いたりとかしてるんですけど、何かそれだけでも結構動機づけになるかなっていう部分あるので、もう少し、せっかくつくったアプリですので、宣伝をしっかりとしていくようにしたらいいんじゃないかなと思います。それが最初かな。それで、先ほどのご意見のようなものがついてくれば、もっとみんな活用するんじゃないかなとは思っています。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>馬場委員から始まって、一応一周したんじゃないかと思うんですが、私、当ててない方、いらっしゃいますか、大丈夫ですか。</p> <p>ご出席の委員、全員にご意見いただいたかと思うんですが。ありがとうございます。</p> <p>五十嵐委員さん、どうぞ、追加コメント。</p>
五十嵐委員	<p>五十嵐でございます。追加ではないんですけど、このプランがコロナ禍で延長してますね、評価の、ですよ。やっぱり今のパンデミックの様子で、そこはもう仕方がないことで、どっちに重きを置かかっていうことの優先度が今迫られていて、私も今、大田区保健所の皆様といろいろな意見交換をしている中で、今の区民の皆様たちの健康っていうのは、やっぱりこの感染症からいかに守っていくかっていうところだと思います。もちろん、その傍らで運動したり、食事に気をつけたり、そして、コミュニケーションというか、コミュニティーを保っていったりっていうことは重要なんですけども、今の区民の皆様たちの健康って何かっていうと、やっぱりこの感染症からいかに守っていくかっていうところになるのではないかなと思うので、このおたプランの評価が延長されていますので、今はやはり感染症というところでの皆さんたちの不安を取っていったり、あるいは実際にハイリスクの皆さんたちを守っていったり</p>

	<p>ていうところが、まずは今大事なところではないかと思えます。</p> <p>それで、その上で、少しこれが見通しが立ったところで、今、先生方が、委員の皆様たちがおっしゃったところを一気に仕掛けていくといいますか、少し本当に停滞していた健康づくりを一気に仕掛けて、何ていうんですか、あるべき姿といいますか、より健康な方向に持っていくっていう、そういう緩急がちょっと求められてるように思いますので、その辺りは発信の仕方っていうのも、今、皆さん、健康づくりしましょうっていうのも、ちょっと何かぴんとこないっていうところだと思うので、やっぱり今はこの感染症から、それぞれがまずきちっと予防対策をしたり、みんなで支え合っていくっていうような、そういうことなんじゃないかなというふうに感じましたので、ちょっと申し上げたいと思えます。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。うまくまとめていただきまして、ありがとうございます。今日は、委員からいろんな意見、非常に参考になるご意見だったと思えます。</p> <p>そしたら、大学側からは少しコメントありますか。</p> <p>朝倉先生、いかがですか。ちょっと時間があるので、短くて構いませんけど。</p>
朝倉准教授	<p>東邦大学の朝倉です。お世話になっております。</p> <p>今、いろいろご意見をいただきまして、人生100年を見据えた健康寿命延伸プロジェクトということで、今、大田区と共同で活動させていただいてるんですけども、やっぱり質問票調査などでも、食事とか運動とか休養とかの情報をいろいろ区民の方からいただいて、どこに問題がありそうとか、どこに強みがありそうって分かってくると思うんですが、そういうのを解決していくにはどうしたらいいかっていうようなことを考えるに当たって、やっぱり感染の状況も考えながら活動していったほうがいいということとか、あとスポーツクラブの話とか、あと地域の企業さんの話とかっていうのも出てましたけれども、いろいろな方々のご協力とかを仰ぎながらやっていったほうがいいっていうようなこととか、いろいろできることがあるかなというふうに思いました。</p> <p>あと、いろんなプランの成果の評価をどうするかっていうことが、最初のほうからちょっと話題になってましたけれども、その辺も、今回、新しい何かこう、健康にいいようなことできないかっていうようなプロジェクト考えていこうっていうことになっているんですが、評価をどうするかっていうところも、最初に考えながら、やっぱりプロジェクト考えていくのがいいのかなっていうふうにちょっと思いましたので、これ、最初から、どういうふうになって、目標をきちっと定めてプランを考えていくのがいいのかなというふうに思いました。以上です。</p>
西脇会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今村先生、何か一言どうですか。</p>
今村助教	<p>東邦大学の今村と申します。今日は参加させていただきありがとうございました。</p> <p>委員の皆様のご意見をお聞きして、改めて、今、共同研究で、人生100年を見据えたプロジェクトチームということで、地域の健康づくりのことを区役所の皆様と一緒に考えているんですけども、ご意見伺うのに、やっぱり環境づくりっていうのはすごくキーポイントなんだなっていうふうには感じました。情報っていうのも含め</p>

	<p>て、健康になる情報をどうやってやれるか、やりやすい環境をつくるかとか、あと、健康づくりしたくなるようにどう促すかっていうのがすごく大事だになっていうふうに思ったのと。あと、これは今までプロジェクトチームの会議とかで、いろんな議論を重ねながら、私自身感じていることは、既に結構大田区にあるいろんな資源、人であったり、物であったり、活動であったりとか、一例を挙げると、例えば僕の近くの大田区の公園には健康器具があるんですけど、あまり使われてない印象があるんですね。なので、そういった、本当は資源、もっともっと活用すれば、すごく面白い取組になるんじゃないかっていうのがたくさんある気がします。なので、いろんな人のご意見伺いながら、私自身もちょっと視野を広げながら、今後取り組んでいきたいなと考えております。ありがとうございました。</p>
西協会長	<p>ありがとうございました。たくさん意見いただきまして、非常に役に立つご意見もあったんじゃないかと思えます。 全体を含めまして、何か区のほうからございますか。</p>
健康医療政策課長	<p>委員の皆様のご貴重なご意見ありがとうございました。まちのデザインのお話ですとか、やはり庁内でも、都市基盤整備部、あるいはまちづくり推進部といったハード部局と連携をしていくことによって、健康づくりにつながる、そんなアイデアもいただいたところでございます。 今、プロジェクトチームの活動の中で、そうした視点も既に織り込んでるところも一部あるんですが、一層そうした庁内連携、このハード部門に限らず、進めていくようなことで実を上げていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。</p>
西協会長	<p>ありがとうございました。 ちょっと時間もございますので、議事の2番はこれぐらいにさせていただきますので、(3)番、その他ということですけど、事務のほうで、何かご用意されたのございますでしょうか。</p>
健康医療政策課長	<p>特にその他はございません。</p>
西協会長	<p>ありがとうございます。そうしますと、一応議事としてはこれで終了かと思えます。ですので、ここでマイクをお返ししたいと思います。</p>
健康医療政策課長	<p>西協会長、ありがとうございました。 委員の皆様、本日は会議へのご出席と活発なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。いただいたご意見を参考に、今後もプランの進捗に努めてまいります。 次回の推進会議は、令和4年7月の上旬を予定しております。会場など、詳細が決まり次第、ご連絡をさしあげます。 委員の皆様には、今後も、随時ご意見をお寄せいただければと存じます。 最後に、保健所長の伊津野より、ご挨拶を申し上げます。</p>
保健所長	<p>保健所長、伊津野でございます。部長の冒頭の挨拶にもありましたように、昨日の新規感染者は、区でも1,000名近くと、過去最高となっております。それに伴い、保健所の負担も大きなものとなっておりますが、東京都は、自宅療養してる感染者につきまして、50歳未満の軽症者の健康観察は本人に委ねる体制に切り替</p>

	<p>え、毎日確認してきた保健所の負担を軽減するとしております。国の動きも保健所の負担の減る方向に向かうものと信じております。</p> <p>コロナも3年目を迎え、保健所の業務の中で、ワクチンも含め、コロナ対応が大きな部分を占めております。区民をコロナから守ることは最重要課題ではありますが、コロナ対応だけをやっているということではなく、コロナが終わった後も見据えながら、区民の健康をどう高めていくかを考えておかなければならないと考えます。</p> <p>本日の健康プランの進捗管理をグラフ化しやすく、分かりやすくするという試みは、従来の文字を全部読まなければ分からなかったことが、一目で全体を把握できるという点で画期的なものであると考えます。もちろん数値化になじまない事業もあると思いますが、事業の評価や今後の事業計画を立てる上でも、今回のグラフ化が大いに参考になるものと期待されます。</p> <p>東邦大学との共同研究も、来年度はいよいよモデル地区で実践していくという新たな段階に入ります。この研究もコロナの影響を強く受けており、コロナ陽性者の調査に追われ、職員も思うように参加できない状況が続いておりますが、東邦大学の西脇先生、朝倉先生、今村先生方のご尽力で、何とか形が見えてきたと思います。この場をお借りしてお礼申し上げます。</p> <p>改めてコロナに負けずに、大田区の健康プランを推進していきたいと強く思いました本日の会議でございました。</p> <p>ご参加の皆様、本当にありがとうございました。</p>
健康医療政策課長	<p>それでは、以上をもちまして令和3年度第2回おおた健康プラン推進会議を終了いたします。</p> <p>リモート参加の委員の皆様は、順次、会議画面からご退出くださいませ。</p> <p>どうもありがとうございました。</p>